

小学校第5学年 図画工作科 学習指導案

期 日 平成22年9月29日（水）第5校時
 場 所 玉名市立鍋小学校 5年教室
 指導者 教諭 井上 香織

1 題材名

「こんなとき 感じること 思うこと～鍋の海～」(A表現 (2) 絵に表す活動 日本文教出版)

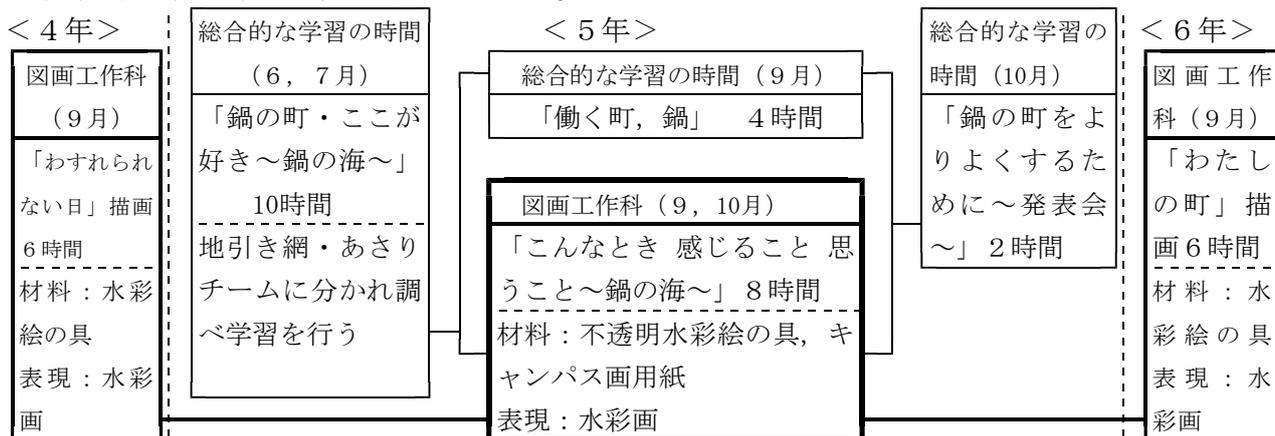
2 題材について

(1) 本題材では、校区内にある堤防から見える風景を絵に表す対象として取り上げる。そこからは、鍋の重要な産業の一つである海苔の養殖場や多くの船が繋がれている様子が一望できる。この身近な「鍋の海」をしっかりと見つめて自分が表したいことを明確にし、画面構成や色の使い方を工夫して絵に表すこと、そしてお互いの作品を鑑賞して表現の良さや美しさ、表現した人の思いを感じ取ることが、本題材の内容である。

ところで、学習指導要領の高学年の目標には、『材料などの特徴をとらえ想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさなどを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにする。』と示されている。これを受けて、A表現の項目(2)に、ア『感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことことから、表したいことを見つけて表すこと』と示されている。この事項は、表現の始まりにおける発想や構想の能力を示しており、自分の感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことなどのイメージソースを基に、表したいことを発想して表すことを求めたものである。しかし、本校児童の実態を見ると、他の活動に比べ、イメージをすることを苦手と感じている児童が多い。そこで本題材では、総合的な学習の時間における「鍋の海」や産業についての調べ学習や体験学習、社会科における海苔の養殖の学習等と関連付けた指導を行う。そのことにより、自分の感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことなどの児童の地域に対する思いは、単に身近な風景を見つめて得られるもの以上に豊かに膨らみ、一人一人が「自分が表したいこと」をしっかりとつかみ、それを表すために創造的な技能を働かせて活動していくことが期待できる。

また学習指導要領には、〔共通事項〕としてア「自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。」イ「形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」と示されている。これらの〔共通事項〕は、学習指導においては常に意識して指導を工夫していく必要がある。本題材においては、身近な「鍋の海」を様々な視点から深く見つめて自分が表したいことを見つけ、構図や色彩を工夫して表現する活動を通して、形や色彩、奥行き等の特徴をとらえ、自分のイメージを持って表現する児童の姿を求めていきたい。

(2) 本題材の系統は次のとおりである。



(3) 本題材に係る児童の実態は次のとおりである。

○本学級の児童は、男子16人、女子12人の計28人である。図工の時間を楽しみにしており、学習活動に対する集中力も高い。絵を描く、工作に表すなどの造形活動には意欲的に取り組む児童が多い。前期前半には、液体粘土で造形活動を楽しんだり運動会の思い出を版で表したりした。

○反面、表したいという思いはあっても、その具体的なイメージを持つことができず、他の活動に比べ発想・構想の活動に苦手意識を持っている児童が多い。また、「このような作品にしよう」という自分のイメージを表現するために、形や配色などを具体的に考えて制作することに積極的な児童は半数にも満たない。

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞
<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くことは好きである。75% ・作品の構想を練るときわくわくする。68% ・海をテーマに描きたい。94% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「作品をこのようにイメージしよう」としっかりイメージすることができる。46% ・イメージを表現するために形や色など具体的に考えることができる。53% ・そのことを楽しみにしている。53% 	<ul style="list-style-type: none"> ・色を作り出したり表現方法を工夫できる。54% ・それが楽しい。86% ・「このような作品にしよう」というイメージが表現できているか見直ししながら進めることができる。50% 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を見るのは楽しい。100% ・友達の作品を見ると、よさや美しさなどがすぐに思い浮かぶ。64%

(アンケート9月実施：提示している割合は「A:いつもそうだと思う」の割合)

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

○書く、話し合う等の言語活動を計画的に位置付け、ワークシート（ことばのスケッチ）を活用しながら、その充実を図る。

○他の教科と関連付けることで、それぞれの教科等の特性を生かしながら相乗的な効果が期待できる。本学習では、「表したいこと」を具体化させる場面で、総合的な学習の時間や社会科での学習と関連付けた指導を行う。具体的には、総合的な学習の時間等での自然体験や調べ学習の内容を振り返り、それらの学習で自分が得たことや考えたことをポートフォリオ等の記録から再度確認させる。その上で、実際の「鍋の海」に向き合わせることで、目の前にある風景だけでなく、これまでの学習や体験に支えられた、自分が描き表したいこと（風景）が見えてくると考えられる。その際、言葉かけを適切に行い、ワークシート（ことばのスケッチ）を活用して言葉として記録させたりしながら、児童一人一人に表したいことを明確につかませるように努めたい。また、事前に「鍋の海」からイメージすることを言葉として書かせて、全員の分を一枚のイメージマップにまとめ、作品をイメージする一助とする。

○画面構成と配色計画の段階では、自分が描く画面の構成や彩色の見通しを持つことができるように、参考作品を用いて構図の取り方や水彩絵の具の彩色や混色の仕方などについて指導する。この学習により、以降の活動で児童が自分の作品のイメージを表現する際に、形や色などの視点から考える習慣の育成を図りたい。

○下絵を描く段階では、簡単なスケッチを基に、一番描きたい部分を中心に画面構成を考えさせる。その際、「付け足し」や「トリミング」を示し、児童が画面構成を工夫できるようにする。

○下絵や彩色の段階では、グループによる話し合い活動の場を設定し、自分が表したいことが表現できているかを点検したり互いにアドバイスし合ったりして、表したいことをより一層工夫して表現できるようにする。その際、ワークシート（ことばのスケッチ）を活用し、記録や振り返りが確実にできるようにする。

思考力，判断力，表現力等と言語活動

図画工作科において思考力，判断力，表現力等に深く関わるものは「発想や構想の能力」であり，本題材においては，「自分が描き表したいことをはっきりもち，それを表すために表現方法を試したり，やり直したりしながら，画面構成や色の組み合わせの仕方を考える能力」である。この能力を育成するためには，①知識・技能を活用する学習活動の充実，②言語活動の充実が必要である。

本題材では，①について，熊本型授業を展開し，画面構成や彩色の仕方についての徹底指導と，その学びを生かして自分で考え工夫していく能動型学習の場を設定することで，めりほりのある学習展開を心掛ける。また，児童の学習の到達度状況を適切に評価し，指導の改善につなげる指導と評価の一体化を心がける。

②については，表したいことを明確にさせる指導や，表したいことを表現するために，形や色彩，表現技法などを具体的に考えさせる指導が必要である。そのために，〔共通事項〕をベースとして，学習活動の中で「書く」「話し合う」などの活動を整理し，これらの言語活動を計画的に位置付け，適切に実施することで，児童の思考力，判断力，表現力等を高めることを目指す。「書く」活動においては，ワークシート（ことばのスケッチ）を工夫し，表したいことを明確にしたり，表現の構想を具体化したりできるようにする。

「話し合う」活動においては，友だちと伝え合ったり話し合ったりする活動を通して，見方や感じ方，考え方を広げ，学んだことや感じたことを共有させたり，互いの良さを認め合う場として計画的に実施する。その際，個々のイメージやアイデアを共有できるように，これまでの学習で出てきた基本的な造形要素の言葉などをカード化して「ことばのポケット」にストックしておき，学習の中で繰り返し提示するとともに，児童が活用できるように準備しておく。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	総合的な学習の時間に学んだ「鍋の海」について想起し，自分が表したいことをはっきりもち，絵に描き表す楽しさを味わう。 自分が描き表したいことがよく表れるように，画面構成や色の組み合わせなどを工夫する。 作品を鑑賞し，お互いに感じたことや表現の工夫を話し合う。
関心・意欲・態度	「鍋の海」を絵に表すことに興味・関心をもち，自ら課題に取り組み，意欲的に製作や鑑賞をしようとする。
発想・構想の能力	自分が描き表したいことをはっきりもち，それを表すために表現方法を試したり，やり直したりしながら，画面構成や色の組み合わせの仕方を考える。
創造的な技能	自分が描き表したいことを表すために，画面の構成や色の使い方を工夫して，自分なりの方法で表現している。
鑑賞の能力	画面構成や色の組み合わせの仕方から表現の良さや美しさを感じ取り，表現した人の思いについて話し合っている。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い）

次	時間	学習活動	めざす子どもの姿（評価規準）	〔共通事項〕	◎材料◇用途 ★表現方法	※言語活動とその留意点
1	1h	○総合的な学習の時間等で学んだことを振り返りながら「鍋の海」のスケッチをして、表したいことをはっきりさせる。 発想する段階	【関・意・態】 自分が描き表したいことを豊かにイメージし、明確にする。	堤防から見える風景から、形や色彩、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分が表したいイメージをもつ。	◎スケッチブック ◎画用紙 ◎鉛筆 ◎サインペン ★スケッチ（鉛筆・サインペン）	○書く 【ことばのスケッチ】 ◎話し合う 【グループでの話し合い】 【ことばのポケット】
2	1h	○画面構成の仕方を理解し、描き表したいことを表現するために画面構成を工夫して下絵を描く。 構想する段階	【発・構】 自分が描き表したいことを表現するための画面構成を考える。	形の重なりや奥行き等をとらえ、自分が表したいことを下絵に表現する。	◎スケッチブック ◎鉛筆 ◎サインペン ◎画用紙 ★鉛筆での下絵（透視図法等）	○書く 【ことばのスケッチ】 ◎話し合う 【グループでの話し合い】 【ことばのポケット】
	1h	○色の使い方や組み合わせ方による効果を理解し、自分の表現にふさわしい配色や彩色の仕方を考える。 構想する段階	【発・構】 自分が表したいことを表現するために、混色や彩色の仕方を考える。	色の使い方や組み合わせ方等から、自分の表したいイメージを具体化している。	◎画用紙 ◎水彩用具一式 ★水彩絵の具による彩色	○書く 【ことばのスケッチ】 ◎話し合う 【グループでの話し合い】 【ことばのポケット】
3	4h	○彩色の仕方を試しながら工夫して色を塗る。 表現する段階	【技能】 自分が表したいことを表現するために、彩色の仕方等を工夫して表現している。	自分の表現意図にふさわしい配色や彩色を工夫する。	◎画用紙 ◎鉛筆 ◎サインペン ◎水彩用具一式 ★水彩絵の具による彩色（混色・重色等）	○読む 【ことばのスケッチ】 ○書く 【ことばのスケッチ】 ◎話し合う 【グループでの話し合い】 【ことばのポケット】
4	1h	○自分の作品を発表したり、友だちの作品を鑑賞したりして、表現のよさや工夫を味わう。 鑑賞する段階	【鑑賞】 画面構成の仕方や色の組み合わせ方等から表現の違いやよさを感じ取り、作者の思いや表現意図について話し合っている。	言葉にして伝え合うことで、形や色彩、心に浮かんだイメージなどを具体化する。		○書く 【ことばのスケッチ】 ◎話し合う 【グループでの話し合い】 【ことばのポケット】

5 本時の学習

(1) 目標 自分のイメージを表現するために、水彩絵の具の混色や彩色の工夫ができる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 前時の学習を想起する。 (1) 友だちの作品から友だちが表したかったイメージを考える。【一斉】 (2) イメージを表すための配色や塗り方を考える。【一斉】	○作品やシートで学習を振り返りましょう。 ○作品から友だちが表したかったイメージを考えましょう。	○前時までの学習活動において、イメージがよく表されている児童の作品を取り上げ、そのイメージを考える。本時の学習活動に対する意欲を高めることができるようにする。 ○「ことばのポケット」の言語を参考にして、表現に関する言葉を共有化する。	投影機 作品 ことばのスケッチ
展開 35分	2 学習課題を確認する。【一斉】 チャレンジタイム	自分が表したいイメージにふさわしい色や塗り方を見つけよう。 ○配色や塗り方に、どのような工夫の仕方があるか考えましょう。		投影機 作品
	3 参考作品を用いて、配色や塗り方を考える。 (1) 三つの作品を比べる。【一斉】 (2) 下絵カードのイメージを明確にして色を塗る。【個】 (3) できたカードを基に班で話し合い、全体で紹介し合う。【グループ→一斉】	○三つの作品から、配色や色の塗り方の工夫を見つけましょう。 ○カードの絵をイメージを明確にして塗ってみましょう。 ○作品を基に、塗り方の工夫や配色の仕方など出し合ひましょう。 ○自分が表したいイメージを表現するために、どのような配色や塗り方をするか「ことばのスケッチ」で、具体的に考えてみましょう。 ○色の塗り方を考えることができた友だちを紹介しましょう。 ○自分の取り組みを振り返りましょう。	○三つの作品を比べることにより、配色や塗り方の工夫の仕方を知る。言葉カードで共有化する。 ○色の塗り方が参考になる児童の活動の様子を投影機でテレビの画面に映す。 ○作品を基に意見を出し合うことで、配色や塗り方に関して知識を広げあい、「ことばのスケッチ」にメモしていく。 ○「ことばのポケット」のことばカードを掲示し、表現する際の	下絵カード ことばのスケッチ 投影機
終末 5分	4 本時の学習を振り返り、次時は、チャレンジタイムで学んだことを生かして自分の作品の配色や色の塗り方を考える。	○次時は、学習したことを生かして、自分の作品の色の塗り方を考えましょう。	評価B：自分のイメージを表すために、水彩絵の具の混色や彩色の仕方を工夫している。 【行動観察・下絵カード・ことばのスケッチ】 評価A：自分のイメージを表すために、色の使い方や組み合わせによる効果を考え、水彩絵の具の混色や彩色の仕方を工夫している。	

【一斉】

【観察・下絵カード・ことばのスケッチ】

○ことばのスケッチに記入していた配色や塗り方をふり返り、次時への意欲を高める。